

本科 1 期 6 月度

解答

Z会東大進学教室

## 高2東大世界史



## 8章 古代インド・東南アジア

### 問題

#### 【1】

##### 解答

- (1) 26 (2) 4 (3) 7 (4) 11 (5) 22 (6) 15 (7) 12 (8) 9  
(9) 13 (10) 10 (11) 6  
(あ) 3 (い) 2 (う) 2 (え) 4 (お) 3  
(A) 2 (B) 3 (C) 4  
(ア) セレウコス朝 (イ) プルシャプラ (ウ) シヴァ神

##### 解説

(1). 古代インド史では、紀元前の出来事を 500 年単位で暗記するとよい。前 1500 年頃にアーリア人が北西インドのパンジャーブ地方に定住、前 1000 年頃にガンジス川流域にも進出し、前 500 年頃に仏教やジャイナ教が成立する。

(2)・(3). 国家形成や商工業の発達を背景にクシャトリヤやヴァイシャの社会的役割の重要性が増す中で、バラモンの権威への反発からクシャトリヤのヴァルダマーナ・ガウタマ＝シッダールタの開いたジャイナ教・仏教は新たな信者を獲得することとなる。

(4)・(5). ナンダ朝マガダ国はコーサラ国を倒してガンジス川流域を統一する。この国で仏教やジャイナ教も成立する。

(6). チャンドラグプタはガンジス川流域のパートリプトラを都にマウリヤ朝を開いた。

(7). サカ族は中央アジアのイラン系遊牧民で、北西インドにサカ朝を建てたが、クシャーナ朝に滅ぼされた。

(8). カニシカ王は仏教を保護し、第 4 回仏典結集を行ったことでも知られる。

(9). サータヴァーハナ朝はドラヴィダ系国家で、ローマ帝国との間で季節風を利用した貿易を行ったことでも有名である。

(10). カーリダーサはグプタ朝最盛期のチャンドラグプタ 2 世の宮廷で活躍した。

(11). 5～6 世紀に中央アジアで勢力を誇ったエフタルは、6 世紀にササン朝ペルシア（ホスロー 1 世時代）と突厥の攻撃を受けて衰退する。

(あ). 両作品の原形は紀元前に存在するが、現在の形にまとめられるのは 4 世紀頃（グプタ朝時代）である。

(い). サータヴァーハナ朝出身のナーガールジュナ（竜樹）は、クシャーナ朝期に大乗仏教の理論を完成し、『中論』などを残した。

(う). クシャーナ朝時代にヘレニズム文化の影響からガンダーラ美術が確立し、インドで初めて仏像が作成された。

(え). 玄奘はヴァルダナ朝時代のインドで学び、ハルシャ＝ヴァルダナ王とも謁見している。

(お). 法顯はグプタ朝チャンドラグプタ 2 世時代のインドで学んだ。

(A). b が誤り。楔形文字はシュメール人が考案してメソポタミアで用いられたもの。インダス文字は象形文字であるが、現在でも未解読である。

(B). a が誤り。基本的な身分の区分がヴァルナであり、生まれを同じくする集団がジャーティである（ジャーティとは「生まれる」の意味）。

(C). ともに誤り。八正道は仏教での実践項目であるので a は誤り。また仏教は悟りへの手段として苦行を否定した。苦行の実践を説いたのはジャイナ教である。よって b も誤り。

(ア). アレクサンドロスの帝国が崩壊した後に、その東部を継承したセレウコス朝はインドへの侵入を試みるが、マウリヤ朝の開祖チャンドラグプタに撃退された。

(イ). プルシャプラは現在のペシャワールである。この都市は現在はパキスタン国内に位置している。

(ウ). シヴァ神はヒンドゥー教の三大神の1つで、宇宙の破壊と再生をつかさどる神である。シヴァ神の像は踊っている姿で作成されるものが多いため「舞踏の王」と呼ばれる。

## 【2】

### 解答

空欄 a マガダ b コーサラ c ナンダ d アショーカ e カリンガ

f ダルマ g パータリップトラ h ヴィシュヌ神

設問 (1) ヴァイシャ (2) (イ) 仏典結集 (ロ) セイロン島 (3) カーリダーサ

(4) カナウジ

### 解説

a ~ c. ガンジス川流域におこったマガダ国はシスナーガ朝・ナンダ朝と続き、ナンダ朝の時にコーサラ国を滅ぼす。

d ~ f. アショーカ王はインド南端をのぞくインドを統一する。デカン高原東部のカリンガ王国討伐時の残虐行為は彼が仏教に帰依するきっかけとされる。またダルマ（普遍的規範としての法）を統治の根本とし、ダルマを刻んだ磨崖碑・石柱碑を国内各地に建てた。

g. パータリップトラ（現パトナ）はマウリヤ朝とグプタ朝の都とされた。

h. ヴィシュヌ神はシヴァ・ブラフマーとともにヒンドゥー教の三大神の1つで、世界を維持する神。

(1). ジャイナ教はヴァイシャ（とくに商人層）に普及した。仏教はクシャトリヤの支持を得た。

(2). (イ). 第3回仏典結集はマウリヤ朝のアショーカ王によって、第4回はクシャーナ朝のカニシカ王によってなされた。

(ロ). マヒンダにより仏教が伝えられた地はセイロン島（スリランカ）で、この地では今日でも仏教が盛んに信仰されている。

(3). 【1】の空欄(10)の解説文を参照。

(4). カナウジはヴァルダナ朝の都として栄え、ヴァルダナ朝崩壊後も12世紀末まで北インドの政治・経済の中心都市として繁栄する。

## 9章 黄河文明～魏晋南北朝

### 問題

#### 【1】

##### 解答

- (1) 政 (2) 焚書 (3) (a) 李斯 (b) 韓非（韓非子） (4) 齊・楚・秦
- (5) 前221年 (6) 南海郡 (7) 万里の長城の修築、阿房宮の建設などから1つ
- (8) 篆書（小篆） (9) 半兩錢

##### 解説

秦の始皇帝による中国の統一と、その統一政策に関する出題。基本的事項が多いので、間違えた所はしっかりと復習しておくこと。

- (1). 始皇帝は、中国を統一した皇帝として即位する以前は“秦王政”と呼ばれていた。
- (2). 「文書を禁じ」る始皇帝の政策として思い出すべきは焚書（前213）・坑儒（前212）であるが、ここでは「文書」のみに関して問われているので、「焚書」が解答となる。
- (3). (a). ここでまず確認しておきたいのが、(1)の問題文から考えると、ここで引用されている賈誼の『過秦論』は始皇帝に関する事業を論じている、ということである。よって始皇帝に法徳主義を勧めた法家ということで李斯が正解となる。ここでひっかかりやすいのが秦の孝公の時代の商鞅であるから、間違えないように問題文はよく読むこと。
- (b). 李斯に基づいた「法家思想による法徳主義」ということで、法家思想を大成した韓の王族、韓非（韓非子）が正解となる。
- (4). 春秋の五霸のそれぞれの国は齊、晉、楚、呉・越（または宋・秦）であり、戦国の七雄は秦、楚、燕、齊、韓、魏、趙である。よって両者に共通する国は齊、秦、楚の3国となる。春秋の五霸や戦国の七雄については、それぞれの国の内情や歴史などの細かな事象について問われる事はまずないが、その国が位置するところと秦の6国統一の過程については注意が必要である。
- (5). 基本問題。重要年号はしっかりと覚えておこう。
- (6). 始皇帝は前214年に現在の広東省の地に南海郡を設置した。その後、秦末の混乱時に、趙佗が南越国を建設した（前203年）。
- (7). 春秋戦国時代には齊・楚・韓・魏・趙が各国それぞれ長城を築いたが、秦の始皇帝が修築したのはそのうち趙と燕の長城である。これもよく問われる所以地図でその位置を確認しておくこと。他に首都咸陽に築いた壮大な宮殿、阿房宮をあげるのもよい。大運河の建設は隋代の出来事なので間違えないこと。
- (8). 篆書には大篆と小篆の2種類があるが、そのうち前者は六国統一以前に秦で使われていた文字で、小篆が六国統一後に各国の文字を統一する必要から、始皇帝の宰相李斯の建議により制定された文字である。ここでは「統一された文字」ということで篆書もしくは小篆が正解となる。

(9). 始皇帝の貨幣統一は、中国貨幣史上画期的な出来事であった。これは円形で中央に方孔を穿ち、その左右に「半兩」と記したもので、前漢の武帝が五銖錢を鋳造して廃止されるまで、長く使用された。

## 【2】

### 解答

- |       |        |       |       |       |
|-------|--------|-------|-------|-------|
| A (コ) | B (エ)  | C (セ) | D (ケ) | E (サ) |
| 1 (オ) | 2 (ス)  | 3 (ク) | 4 (キ) | 5 (サ) |
| 6 (テ) | 7 (チ)  | 8 (ア) |       |       |
| 9 (セ) | 10 (ツ) |       |       |       |

### 解説

1. 秦が郡県制で中央集権を強化したことへの反発によって短命で滅亡したことから、漢では建国当初は郡県制と封建制を併用する郡国制が採用された。しかし、呉楚七国の乱を平定した後には、漢も実質的に郡県制で全土を治めることになった。

2. 武帝は西方に敦煌郡など河西4郡を、南越を滅ぼして南方には南海郡・日南郡など南海9郡を、衛氏朝鮮を滅ぼして東方には楽浪郡など朝鮮4郡を設置した。これらの郡の位置を地図で確認すること。

A・3. 董仲舒の意見で儒学が官学とされ、五經博士が設置された。五經とは『詩經』・『書經』・『易經』・『春秋』・『礼記』をさすことも覚えておくこと。

B・4～6. 魏は文帝（位220～26）のち次第に衰え、司馬氏が台頭した。魏の將軍である司馬炎（武帝）は西晋を開いて洛陽を都とし、280年には江南の吳を滅ぼして中国を統一した。武帝の死後は帝位をめぐって八王の乱と呼ばれる内紛が起きたが、官僚の間では世俗を超えた議論を交わす清談が流行しており、この危機を開拓する決断力を持たなかった。八王の乱で主戦力として活躍したのは中国内地で辺境の防衛を担っていた北方遊牧民であり、このうち南匈奴が優勢となって洛陽を攻略し、316年に西晋を滅ぼした（永嘉の乱）。

C. 劉裕は東晋の武将であったが、420年に禅譲によって宋を建国した。宋から始まり、齊・梁・陳と続く4つの王朝を南朝と呼び、都はすべて建康に置かれた。

7. 華北を統一した北魏の太武帝は、道教の大成者である寇謙之の意見から道教を国教とし、仏教を弾圧したことでも知られる。

8. 問題文の「試験による官吏登用」から科挙を選ぶ。漢の鄉挙里選・魏の九品中正は地方豪族の台頭および豪族の門閥貴族化を招いたことから、隋において身分ではなく学科試験の成績によって官吏を登用する科挙が導入された。

D. 梁の昭明太子が編纂した『文選』は周から南朝の梁までの散文を集めたもの。

9. 府兵制は西魏で創始された兵農一致の軍制である。丁男3人に1人の割合で府兵を選び、3年に1回農閑期に訓練を施した。

E・10. 北朝は北魏・東魏・西魏・北齊・北周の五王朝をさす。北魏が東西に分裂して東魏・西魏が成立した。次いで東魏が北齊に、西魏が北周に滅ぼされた。北周は長安に都を置く国で、北齊を滅ぼして華北を統一するが、外戚の楊堅に國を奪われ、楊堅は隋を建国した。

# 10章 隋唐・宋・元

## 問題

### 【1】

#### 解答

設問1 1 X 2 R 3 F 4 L 5 Z 6 G 7 S  
8 M 9 Q 10 E

設問2 11 E 12 W 13 Y 14 J 15 G 16 K 17 A

設問3 A 中正官 B 阮籍

設問4 C 孔穎達 D 韓愈

#### 解説

設問1. 1. 黃巾の乱は宗教結社の太平道が中心となって発生した反乱。太平道を率いたのは張角であることも確認しておくこと。

2. 魏の曹丕は後漢最後の皇帝の献帝から皇帝位を禅譲される形で即位し、後漢の都の洛陽を魏の都とした。

3. 魏では占領地に流民や一般農民を入植させて耕作・軍事に当たらせる屯田制が行われた。

4. 魏は蜀を滅ぼしたが、その後に司馬炎がクーデタを起こして晋（西晋）を建国した。西晋も都は洛陽においた。西晋は280年に呉を滅ぼして中国統一を回復した。

5. 西晋では司馬炎の死後に王族の反乱である八王の乱が発生した。周辺民族と結んだ八王の乱は、結果として西晋を衰退させ、北方から侵入した匈奴が永嘉の乱を引き起こして西晋を滅ぼした。

6・7. 西晋の王族の司馬睿は江南に逃れ、東晋を建国した。都は建康に置かれた。建康は三国時代の呉の都としては建業と呼ばれた都市であり、現在の南京に当たる。

8・9. この2つの空欄を解答するには五胡と呼ばれた周辺民族が匈奴・羯・鮮卑・羌・氐であることを知らねばならない。問題文中に羯・氐・羌は記されているので、匈奴と鮮卑に絞れる。問題文に「華北地方」は「( 9 ) の ( 10 ) により統一され」とあるので、( 9 ) が鮮卑と判定でき、よって ( 8 ) には匈奴が入ることもわかる。

10. 鮮卑族の拓跋氏が建国した北魏は、太武帝時代の439年に華北の統一を実現し、五胡十六国時代は終了した。また同時に南北朝時代が開始された。

設問2. 11. 北周の外戚であったことが問われている。外戚とは皇后の一族をさし、しばしばその地位を利用して政権に介入した。

12. 隋の運河の北端と南端はしばしば出題されるので確認しておく。北端は現在の天津付近、南端は現在の杭州である（地図で運河の位置も確認しておくとよい）。

13. 李淵によって唐が建国されるが、唐による中国統一を実現するのは息子で2代皇帝の李世民（太宗）時代である。李世民の治世は安定し「貞觀の治」と呼ばれた。

14. 隋に起源を有する科挙は学科試験による官吏登用法である。前漢時代の武帝が開始した

郷挙里選や、魏に始まる九品中正はともに推薦による官吏登用法であった点が科挙との最大の違いである。

15. 北魏の孝文帝時代に起源を有する均田制は隋・唐にも継承されるが、給田対象が違う点を確認すること。北魏では成人男子・妻・奴婢・耕牛を対象に給田が行われたが、唐では成人男子のみに給田された。唐で給田された口分田は死後国家に返還する土地であり、永業田は世襲を認められたものである。

16. 西魏に起源を有する府兵制は兵農一致の義務兵制である。均田制で土地を与えられた見返りに、農民には兵役の義務が課された。

17. 2代皇帝の李世民時代の「貞觀の治」と、6代玄宗時代の「開元の治」を混同しないこと。

設問3. A. 中正官が人材を9等級に分けて推薦する九品中正が魏で実施されたが、結果として上級官職は地方有力豪族の子弟が独占する状況が生まれた。この状況を表した言葉が「上品に寒門なく、下品に勢族なし」である。

B. 清談とは老莊思想を背景とする厭世的議論のことであり、「竹林の七賢」と呼ばれる人々がその代表である。解答の阮籍や嵇康らが属する。阮籍の名はかなり細かいが、私大も受験する予定のある者は、この機会に覚えておくとよいだろう。

設問4. C. 孔穎達がまとめた『五經正義』により五經の国家認定解釈が示された。これにより訓詁学が完成されたが、儒学の固定化・形式化を招くことともなった。

D. 柳宗元や韓愈は古文復興運動を行った。彼らは南朝から唐にかけて流行した美文体である四六駢體を批判し、漢時代の文体（古文）への復興を唱えた。

## 【2】

### 解答

- ①-b    ②-b    ③-d    ④-a    ⑤-d    ⑥-c    ⑦-d    ⑧-a    ⑨-c  
⑩-b

### 解説

①. 九品中正法（九品官人法）は三国時代の魏で開始された官吏登用法。魏の初代皇帝である曹丕（文帝）が前漢からの郷挙里選に代えて実施したもの。

②. 問題文中の「鮮卑」族の「拓跋」氏が建国した国で、「太武帝」が「華北を統一」から北魏が解答となる。建国者の拓跋珪の名は難関私大受験予定者のみが記憶しておけばよい。

③. 占田・課田法が晋で実施された土地制度である点を思い出すのが解答への第一歩。よってcかdが解答と絞れる。次いで発布した皇帝を考えるわけだが、晋の武帝=建国者の司馬炎であることはやや難問。

④. 問題文に陶潛（陶淵明）に関して暗記すべきキーワードがすべて書かれている。「東晋」の人物である、官職の束縛を嫌って故郷に帰り思索を行った「自然詩人」であり、代表作が「帰去来辭」である。dの謝靈運は南朝の宋で活躍した詩人で、陶潛と並び魏晋南北朝時代を代表する詩人である点も確認しておこう。

⑤. 隋に関する基本知識から消去法でdが解答とわかる。a～cは隋についての必須事項で

ある。d の囲田（制）は五代から宋の時代に新たに干拓された耕地のこと。

⑥. 唐の中央官制である三省六部一台の各職務内容を再確認しておくこと。中書省は詔勅を作成し、門下省が審査し、尚書省が実施した。御史台は監察業務を行った機関。

⑦. 均田制での給田対象の変化を確認する問題である。均田制を開始した北魏では丁男・妻・耕牛・奴婢を対象に給田した。しかし、唐では男子のみが給田対象であった。よって解答はdとなる。中男と丁男の区別は受験では細かすぎるが、中男は16～20歳の男性で、丁男は21～59歳である（丁男の年齢はのちに変化するが、そこまで気にする必要はあるまい）。

⑧. 均田制で国家から土地を保障された見返りに、均田農民には国家への義務が課された。税である租庸調と兵役の義務である。この兵農一致の義務兵制が府兵制である。

⑨. やや難問。唐代の手形は飛錢である。宋時代に発行された世界初の紙幣が交子であるが、元来は交子も四川地方の手形であったもの。

⑩. 均田制崩壊で大土地所有が進展し、地主のもとで耕作に当たった小作農民が佃戸である。a の官戸は科挙合格者を出した家のこと、c の形勢戸は大土地所有で成長した新興地主のことである。d の民戸は明代に作成された戸籍・租税台帳である賦役黄冊に記載された家のこと。

### 【3】

#### 解答

問1 (ア) 780 (イ) 黃巢の乱

問2 均田制崩壊で均田農民の義務として課された租庸調の徵収が困難となり、土地所有を容認した兩税法に変化した。兩税法では現住地での土地・資産を課税対象とし、夏と秋の二期に錢納を原則に徵稅された。(93字)

#### 解説

問1. (ア). 德宗の宰相であった楊炎が780年に兩税法を実施した。兩税法は唐滅亡後も後継王朝に継承され、明代に一条鞭法が導入されるまで続いた。

(イ). 塩密売人を中心とする黃巢の乱は875年に発生した。

問2. 唐初期には均田制と連動して府兵制と租庸調制が実施され、均田農民の義務として課された。だが、兵役や税負担を嫌う均田農民が均田を放棄・逃亡することで均田制は崩壊する。それに伴って府兵制・租庸調制も機能しなくなり、唐中期には兵制は傭兵制である募兵制に変化した。税制は均田制の背景にある公地公民の原則を捨てて、大土地所有を容認する代わりに、現住地での耕地面積を基準として課税する兩税法が導入された。このことは中国の税制が人を基準とするものから、土地を基準とするものへ変化したことを示している。

### 【4】

#### 解答

1 士大夫 2 九品中正（九品官人法） 3 科挙 4 則天武后（武則天）  
5 吏部 6 藩鎮 7 黃巢 8 開封 9 殿試 10 形勢戸

### 解説

唐末五代から宋代にかけての貴族階級の没落と、新興地主階級（士大夫）の台頭をテーマとした問題。問われていることはどれも基本的なものである。問題文をよく読んで、その理解に努めよう。

1. この空欄に入る言葉は、読書人と並行して使用されるべきものである。新興地主階級の宋代以降の呼び名である官戸・形勢戸が思い浮かぶかもしれないが、問題文をずっと読んでいくと、文末の空欄 10 に当てはまる言葉が（官戸）形勢戸だと分かるので、空欄 1 には不適当である。以上から空欄 1 に当てはまる言葉は士大夫となる。

2. 後漢末の党錮の禁（166, 169）で知識人が弾圧されたのち、朝廷に出仕せず、在野に埋もれる知識人が多くなった。この知識人を発掘する目的で実施されたのが九品中正なのだが、その当初の目的にもかかわらず、実際には地方豪族が台頭する一因となってしまった。

3. 「儒学の教養と詩文の能力を試す」から科挙が正解。この空欄は後にもたくさん出ているので、間違えることはあるまい。

4. 中国史上唯一の女帝が則天武后である。彼女が開いた周王朝は武周（690～705）とも呼ばれた。

5. 六部は吏部、戸部、礼部、兵部、刑部、工部の 6 つから成るが、ここでは官吏の人事権を握る役所が問われているので、吏部が正解となる。

6. これも基本問題。地方の実権を握り、軍閥を形成したのが藩鎮である。

7. 黄巣が挙兵したのは 875 年頃だが、まず王仙芝が反乱をおこし、それに黄巣が呼応した、という流れを押さえること。

8. 後梁の朱全忠というヒントからわからなくても、問題文を続けて読むと、この空欄にあてはまる都市が北宋の都でもあることがわかるので、開封が正解となる。

9. これも基本問題。「天子自ら試験を行なう」が最大のヒント。

10. 空欄 1 の解説を参照のこと。

### 【5】

#### 解答

- (1) ラシード＝アッディーン (2) 千戸制 (3) バイバルス (4) ハイドゥ
- (5) 交鈔 (6) 陳朝 (7) ジャムチ (8) 泉州 (9) ルイ 9 世
- (10) トゥグルク朝

### 解説

(1). ラシード＝アッディーンは、イル＝ハン国の第 7 代ハンで同国でイスラーム教を国教としたガザン＝ハンの宰相をつとめた人物である。『集史』はペルシア語で書かれたモンゴル人の歴史書。

(2). 千戸制はチンギス＝ハンが組織した軍事・行政制度で、遊牧民を千戸で一単位とした。

(3). アッバース朝を滅ぼしたフラグ率いるモンゴル軍はさらに西に進み、エジプトのマムルーク朝と衝突した。これをアイン＝ジャールートの戦い（1260）で撃退したマムルーク朝スルタンがバイバルスである。彼は十字軍と戦ったことでも有名。

(4). チンギス＝ハンの子であるオゴタイの孫がハイドゥ。彼はモンケ＝ハン・フビライ＝ハンとチンギス＝ハンの子であるトゥルイ家からハンが続いたことに反発し反乱を起こした。この反乱でモンゴル帝国の分裂が決定的となった。

(5). 交鈔は金と元で発行された紙幣である。元の末期には交鈔の乱発で経済が混乱に陥った。なお、交子は北宋で、会子は南宋で発行された紙幣であることも確認しておこう。

(6). 元王朝が行った遠征については、成功したものと失敗に終わったものを区別して覚えておくとよい。成功したものはビルマ（ミャンマー）への遠征で、パガン朝が滅ぼされた。また、高麗も服属させた。失敗したものは日本への遠征（元寇）・陳朝大越国への遠征・ジャワへの遠征などである。

(7). 幹線道に宿駅を設けて馬や食糧を補給させた元の駅伝制をジャムチと呼ぶ。この内陸交通路の整備は東西のモノやヒトの流通・往来を活発化させ、モンゴル統治下での東西世界の交易・交渉を盛んなものとさせた。

(8). 当時のヨーロッパ主要都市をはるかにしのぐ人口を有した中国の大都市や港はマルコ＝ポーロを驚かせた。問われている「ザイトン」とは泉州のことである。また「カンフー」と呼ばれた広州や、「キンザイ」と呼ばれた杭州のことも紹介されている。

(9). モンゴル帝国や元を訪れたフランチェスコ派修道士の区別に注意する。ルブルックはフランス王ルイ9世が派遣した人物。ローマ教皇が派遣した人物としてプラノ＝カルピニとモンテ＝コルヴィノがいる。派遣したそれぞれの教皇の名は現状では知らずともよいが、プラノ＝カルピニはカラコルムを訪れ、モンテ＝コルヴィノは大都を訪れて初めてカトリックを中国に布教した人物である点は記憶しておこう。

(10). 難問である。解答の方法としては、『三大陸周遊記』を著したイブン＝バットウータが訪れた西アフリカ・インド・中国の国家を暗記していることが必要とされる。彼は西アフリカではマリ王国を、インドではトゥグルク朝を、中国では元朝を訪れた。

MEMO

W2J  
高2東大世界史



|      |  |
|------|--|
| 会員番号 |  |
|------|--|

|    |  |
|----|--|
| 氏名 |  |
|----|--|